

評伝 吉村昭



歴史小説など多彩であった。そのわりに作者について書かれた書物が皆無に近い。歴史小説によって史書・史家をも凌駕する作品世界を提示した存在がもっと注目されてもいいのではないか。かく、部疾患のため咯血、当時仰のオクターブは高潮する。

66年、「星への旅」で太宰治賞。名実ともに作家としての地位を固めたのは「戦艦武蔵」というのが著者の見解で、「調査魔・吉村昭」の面目が躍如としているという。(白水社・3240円)

作家の軌跡を追尋

めた自らの手法への絶対的信頼があったのではな

フードトラ

登場するのは、日本でもおなじみの世界的な加工食品メーカーだ。驚くのは、彼らがいかにわれわれの体のメカニズムを熟知しているかだ。炭酸飲料、スナック菓子、乳製品、冷凍食品…。企業は一流の科学者たちを雇い、あらゆる商品で、消費者にもっと欲しいと思わせる味を作り出す。

その柱は、糖分、脂肪、塩分。これらは味だ

新たな視点、研究広く紹介

郷土の本棚

「賢治学」は、賢治に関わる話題を広く一般人にも紹介しようと岩手大学宮澤賢治センターが創刊した。

賢治学【第1輯】

岩手大学宮澤賢治センター編



「通信」発行を柱に活動。発行していく。今後は賢治に関心を持つ人が新たな視点で語り合

信記事から転載する「宮澤賢治センター通信より」、新進気鋭の研究を紹介する「フォーラム『賢治学』」の四つが柱。

亀井茂さん(元岩手大農学部教員)は、賢治が盛岡高等農林学校2年時に発表した「盛岡附近地質調査報文」について考

「アザリアの咲くとき」展について、展示資料集を振り返っている。

「アザリアの咲くとき」展について、展示資料集を振り返っている。

「アザリアの咲くとき」展について、展示資料集を振り返っている。

「アザリアの咲くとき」展について、展示資料集を振り返っている。

郷土